

子どもの健康と病気の予防⑤

— 今シーズンのインフルエンザ感染症 —

小宅医院 小宅民子

新型コロナウイルス感染症は、コロナワクチン接種者の増加、マスク着用、手洗い、手指消毒の日常化で減少しました。（2021年11月現在）しかし、今後第6波が来ることも考えられ警戒が必要です。

昨年は感染症対策によりインフルエンザ感染症の流行はみられませんでした。今シーズン、インフルエンザ感染症は流行するのでしょうか？昨年流行しなかったことにより、インフルエンザに対する抗体を持たない、また抗体が減っている人が増えていきます。今年はインフルエンザ対策を徹底することが重要です。

インフルエンザ感染症は重症化すると危険で、特に乳幼児や高齢者は注意が必要です。インフルエンザにかかると、高熱や咳などの症状だけでなく、肺炎や脳症などの合併症をおこすことがあります。脳症になると約3割の子どもが死亡し、生存できても

後遺症が残ることがあります。

インフルエンザの予防は、①ワクチン接種②手洗い、うがい、マスク着用、③水分補給、睡眠、栄養、保温などです。ワクチン接種がインフルエンザ予防のもっとも効果的な方法です。

インフルエンザ予防接種は、10月より開始され、生後6か月より接種できます。ワクチン接種により2週間位で抗体（免疫）ができ、約5〜6か月は効果が持続するといわれています。まだワクチン接種を受けていない方は、早めに接種しましょう。新型コロナウイルスワクチン接種の前後2週間空ければ、他のワクチン接種は可能です。

インフルエンザ感染症も新型コロナウイルス感染症も、初期症状は発熱、咳、倦怠感など似ており、症状だけでは区別が出来ません。早めに医療機関を受診してください。

今シーズンのインフルエンザ感染症 5つのポイント

- 今シーズンはインフルエンザ感染症の流行が考えられる
- もっとも効果的なインフルエンザ感染症予防はワクチン接種
- 乳幼児や高齢者は注意が必要
- 新型コロナウイルスワクチン接種の前後2週間空ければ他のワクチン接種は可能
- インフルエンザ感染症と新型コロナウイルス感染症は初期症状が似ている